

## 事業者向け 児童発達支援自己評価表（公表）

2026年4月実施

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点など	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等スペースとの関係で適切であるか	○		活動内容や利用児の人数に応じて使用する部屋を調整し、十分なスペースを確保しながら、安心して活動できる環境づくりに努めています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか	○		法令に基づく配置基準を満たしたうえで、子どもの特性や支援内容に応じた職員配置を行い、必要な支援が安定して提供できる体制を整えています。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか	○		子どもが安心して過ごせるよう、個別指導室や相談室、静養スペースなどを整え、障害特性に応じたわかりやすい環境設定に努めています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか	○		清掃や消毒、備品の点検を継続して行い、子どもたちが安心して快適に過ごせる清潔な環境の維持に努めています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか	○		個別療育は個室を基本とし、集団場面でも必要に応じて落ち着ける場所や別室を活用できるようにし、子どもの状態に応じた柔軟な対応を行っています。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○		職員全体で目標設定や振り返りを行う機会を設け、日々の支援や運営の改善につながるよう継続的に取り組んでいます。	
	7	保護者等向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか	○		年1回の保護者評価を通してご意見やご要望を把握し、職員間で共有したうえで業務改善に活かしています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか	○		定期的なミーティング等を通して職員の意見を共有し、現場の気づきや提案を運営や支援内容の改善につなげています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○		外部からの評価や助言を職員間で共有し、改善点を整理しながら、事業所全体で支援の質の向上に取り組んでいます。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか	○		園内研修、外部研修、専門家による研修などを組み合わせ、職員の専門性向上に継続的に取り組んでいます。	

11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか	○		支援プログラムを作成し、事業所の取組内容が分かりやすく伝わるよう公表しています。	
12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○		多面的なアセスメントと保護者からの聞き取りをもとに、子どもの発達状況や課題を整理し、一人ひとりに応じた支援計画を作成しています。	
13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共有理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか	○		日々の様子や支援経過を職員間で共有しながら、子どもの最善の利益を踏まえて支援方法を検討しています。	
14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか	○		支援計画を職員間で共有し、計画に基づいた継続的で一貫性のある支援を行っています。	
15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		標準化されたアセスメントツールに加え、日々の観察や記録を活用しながら、子どもの状況を多面的に把握しています。	
16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○		「本人支援」及び「移行支援」については、発達の5領域を踏まえながら、子どもの特性や発達段階に応じた支援内容を計画に反映しています。また、「家族支援」や「地域支援・地域連携」についても、必要に応じて個別に検討し、保護者や関係機関との連携を図っています。	家族支援や地域支援・地域連携については、すべてのケースで一律に設定しているわけではないため、今後は計画作成時に必要性をより丁寧に確認し、支援内容を具体的に記載できるようにしていきます。あわせて、関係機関との情報共有の機会を増やし、日常的な連携体制づくりや地域資源の把握・活用を進めていきます。
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		活動プログラムについては、必要に応じて職員間で相談しながら立案しており、子どもの状況やその時期の課題に応じて内容を調整しています。	現在は活動プログラムの立案を時々チームで行っている状況であるため、今後は定期的に話し合う機会を設け、より継続的にチームで検討できる体制を整えていきます。職員それぞれの視点や専門性を生かしながら、意見を出し合いやすい環境づくりを進め、支援内容の充実につなげていきます。

	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○		子どもの発達段階や興味・関心に応じて活動内容を調整し、活動が固定化しないよう意識しながらプログラムを設定しています。	活動内容は固定化していないものの、一部で類似した内容が重なりやすい傾向があるため、今後は活動のねらいや実施状況を整理し、プログラムの幅をより広げていきます。季節や子どもの発達課題に応じた新たな活動も取り入れ、重複を減らしながら、子どもが意欲的に参加できる内容となるよう工夫していきます。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか	○		子どもの発達段階や特性に応じて個別活動と集団活動を組み合わせ、それぞれの活動の効果を活かした支援を行っています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか	○		支援開始前にその日の活動の流れや役割分担、子どもの様子について確認し、チームで連携して支援にあたっています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点などを共有しているか	○		支援後には連絡事項や気づきを共有し、翌日のカンファレンス等でも振り返りを行うことで、継続的な支援改善につなげています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		日々の支援内容を記録し、職員間で共有するとともに、必要に応じて保護者とも情報共有しながら支援の見直しにつなげています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか	○		定期的にモニタリングを実施し、保護者との面談や他機関からの情報も踏まえながら、支援内容の見直しを行っています。	
関係機関や保護者	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか	○		会議には、日頃から子どもと関わり、状況を把握している職員が参加し、実態に即した情報共有と連携が行えるようにしています。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		保育園、幼稚園、学校、福祉機関等と連携しながら、子どもの生活全体を見通した一貫した支援につなげています。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		保護者の希望を踏まえながら、園や関係機関との情報共有を行い、子どもが安心して生活や学びの場に参加できるよう支援しています。	

との連携関係機関や保護者との連携	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容用の情報共有と相互理解を図っているか	○		就学に向けて、保護者の同意のもとで学校と情報共有を行い、子どもの特性や必要な支援について相互理解を深めるよう努めています。	
	28	(◎は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか	○		必要に応じて地域の児童発達支援センター等と連携し、助言や支援の方向性について共有できる体制づくりに努めています。	
	29	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか	○		事業所内での直接的な交流機会は多くありませんが、保育所や幼稚園等とのつながりを通して、子どもが地域の中で関わる機会を持てるよう働きかけています。	
	30	日頃からこどもの状況を保護者と伝えあい、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		定期的な面談や日々の情報共有を通して、子どもの発達状況や課題について保護者と共通理解を深めるよう努めています。	
	31	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレントトレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか		○	保護者の理解と関わりを深めることを目的として、個別の相談対応や必要に応じた助言を行うとともに、少人数での支援や情報提供の機会を設けるよう努めています。	今後は、各家庭の状況に応じた助言や情報提供に加え、保護者が継続的に学べる機会を広げられるよう、ペアレントトレーニングや保護者向けの学習機会について、実施方法や対象の広がりを検討していきます。
	32	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		契約時に、運営規程や支援プログラム、利用者負担額等について丁寧に説明し、疑問点にもその場で対応できるようにしています。	
	33	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか	○		契約時や面談時に本人・保護者の意向を確認し、その内容を支援計画に反映できるよう努めています。	
	34	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○		保護者面談を通して支援内容を丁寧に説明し、ご理解とご同意をいただいたうえで計画を進めています。	
	35	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか	○		面談だけでなく、電話やチャット等も活用しながら、保護者の悩みや相談に応じ、必要な助言や支援を行っています。	
	36	学習交流会を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか、また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか		○	現時点では、きょうだい同士の交流機会を設ける支援は実施していませんが、保護者への個別対応や相談支援を通して、家庭全体を意識した支援に努めています。	今後は、保護者同士や家族同士が交流できる機会についてニーズを確認しながら、学習交流会や保護者会等の場を活用した実施の可能性を検討していきます。また、きょうだい支援の視点も踏まえ、無理のない形で交流機会を広げられるよう検討を進めていきます。

保護者への説明責任等

37	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		電話、電子連絡帳、チャット、来園時など複数の相談手段を整え、保護者が相談しやすい体制づくりに努めています。	
38	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		必要に応じておたより等を配布し、活動概要や行事予定、連絡事項について保護者へ分かりやすく情報発信しています。	
39	個人情報の取扱いに十分留意しているか	○		個人情報を含む書類は鍵付き書庫で管理し、廃棄時にはシュレッダーを使用するなど、適切な情報管理を徹底しています。	
40	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		子どもには視覚的支援や具体物等を活用し、保護者にはやさしい日本語や翻訳ツール、複数の連絡手段を用いて、分かりやすい情報伝達に努めています。	
41	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか	○		地域とのつながりの必要性を意識しながら、今後の地域交流の在り方について事業所内で検討を行っています。	現在は地域住民を招く行事等を十分に実施できていないため、今後は地域行事への参加、見学の受け入れ、交流機会の設定など、地域に開かれた事業運営の具体的な方法を検討していきます。年間を通した取組として位置づけ、継続的な地域交流につなげていきます。
42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○		各種マニュアルを整備し、職員への研修を通して理解を深めながら、安全な運営に努めています。	
43	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		BCPを策定し、避難訓練等を定期的実施することで、災害時に備えた体制づくりを進めています。	
44	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか	○		事前に、服薬・予防接種・てんかん発作歴などの健康情報を保護者から確認し、必要に応じて職員間で共有しています。	
45	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○		食物アレルギーについては、医師の指示書や保護者からの聞き取り内容をもとに対応体制を整えています。現在のところ該当利用者はいませんが、受け入れ時には速やかに確認できるようにしています。	現在は該当利用者はいませんが、今後アレルギーのある利用者の受け入れに備え、確認手順や緊急時対応の流れをより明確にし、職員間で共通理解を深めていきます。

非常時等の対応	46	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか	○		安全計画に基づき、職員研修や訓練を継続して実施し、安全管理に必要な体制整備と支援の見直しを行っています。	
	47	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取り組み内容について、家族等へ周知しているか		○	子どもの安全確保に関する取り組みについて、契約時や面談時に家庭へ説明し、必要に応じて個別に情報共有を行えるよう努めています。	安全計画に基づく取り組み内容について、契約時や面談時だけでなく、必要に応じて文書等も活用しながら、保護者により分かりやすく丁寧に周知していきけるよう工夫していきます。
	48	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか	○		ヒヤリハットや事故報告は記録を残し、職員会議等で共有したうえで、原因分析と再発防止策の検討につなげています。	
	49	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		虐待防止のため、職員向け研修を定期的を実施するとともに、保護者へも重要事項説明書等を通して方針を周知しています。	
	50	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○		身体拘束の適正化について職員間で共通理解を図っており、やむを得ない場合の対応手順や説明方法についても確認しています。現時点では身体拘束は実施していません。	